

～誰もが安全で快適に移動できる地域社会を目指して～

利用者視点に立った 公共交通サービスの再構築

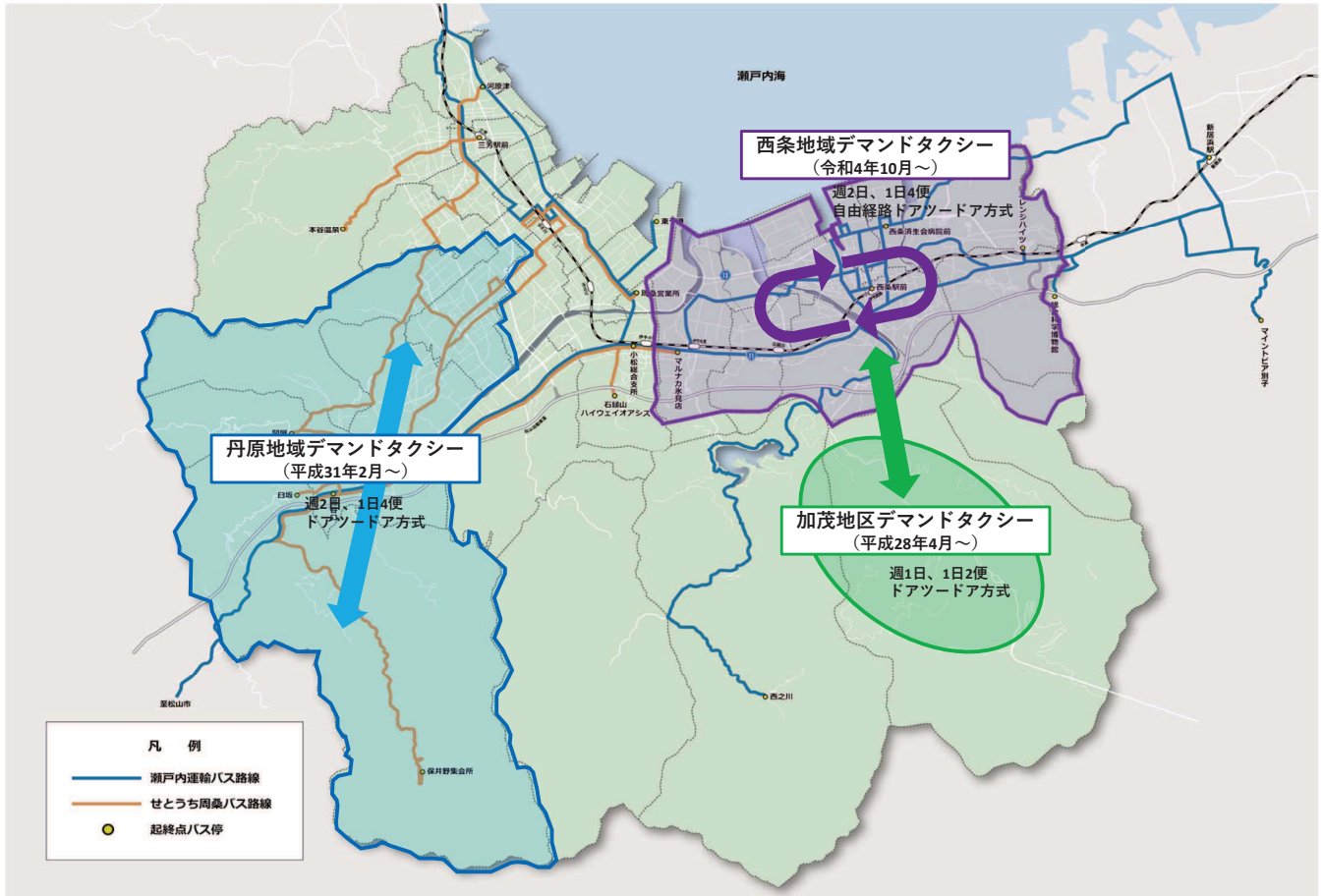
西条市市民生活部くらし支援課



01

西条市デマンド型乗合タクシー の運行状況



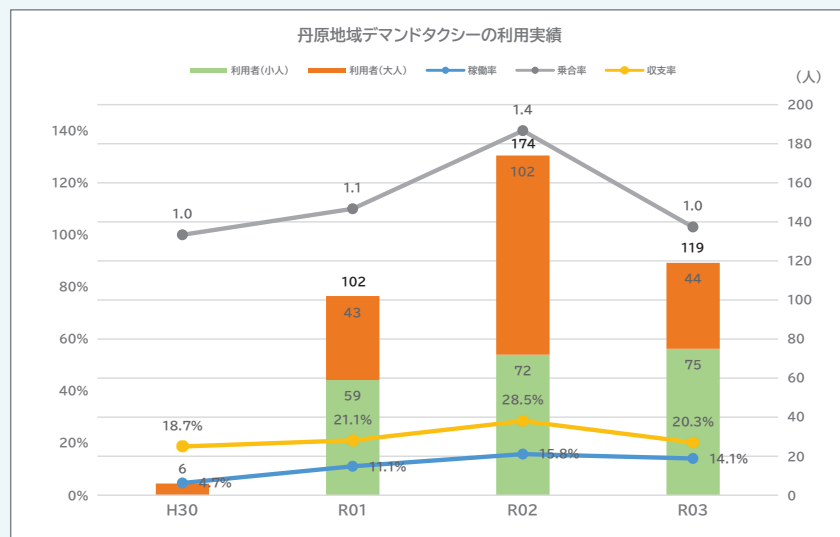


名称	丹原地域よりそいタクシー		加茂地区よりそいタクシー		西条地域よりそいタクシー		
運行開始	平成31年2月		平成28年4月		令和4年10月		
運行回数	週2日(4便/日)		週1日(2便/日)		週2日(4便/日)		
	保井野(週2日)・楠窪・千原(各週1日)		藤之石千町・川来須(週1日)・荒川(月1回)		運行区域内同一		
運行曜日	火曜日・水曜日		火曜日		火曜日・金曜日		
1便あたり配車台数	2台		2台		3台		
運行実績	令和3年度 116回/824回(稼働率14.1%)のべ利用者119人		令和3年度 148回/220回(稼働率67.3%)のべ利用者238人		—		
運行時刻	周桑病院(市街地)方面	到着時刻 8:30(予約:前日16:00)	市街地方面	出発時刻 8:30(予約:前日16:00) 15:30(予約:当日13:30)		方向なし	出発時刻 9:00(予約:前日16:00)
		到着時刻 14:30(予約:前日11:30)					出発時刻 11:00(予約:前日16:00)
	保井野・楠窪・千原方面	出発時刻 11:30(予約:当日10:30)	加茂地区方面	出発時刻 7:30(予約:前日16:00) 14:30(予約:当日13:30)			出発時刻 13:00(予約:当日10:00)
		出発時刻 16:30(予約:当日15:30)					出発時刻 16:30(予約:当日10:00)
利用者料金	500円(小学生以下250円)		500円(小学生以下250円)		500円(小学生以下250円)		
運行事業者	(有)周桑丹原タクシー		新居地区旅客自動車協同組合		新居地区旅客自動車協同組合		
委託料設定	おもに距離制運賃(時間制の併用)		時間制運賃		時間制運賃		

丹原地域デマンド型乗合タクシー 《実績》

○人口 11,313人 ○登録者 162人

- ・丹原地域においては認知度が低いことや、利便性の悪さに加え、自ら運転できる方が多いことや身の回りに同乗させてもらえる家族等がいるといった理由から、利用者が非常に少ない
- ・特に、令和3年度までは小学生が通学等に利用していたため、令和4年度以降はさらに利用者数の減少が見込まれる

⇒ 認知向上、利便の改善、地域ぐるみでの取組が課題

※令和4年3月末時点

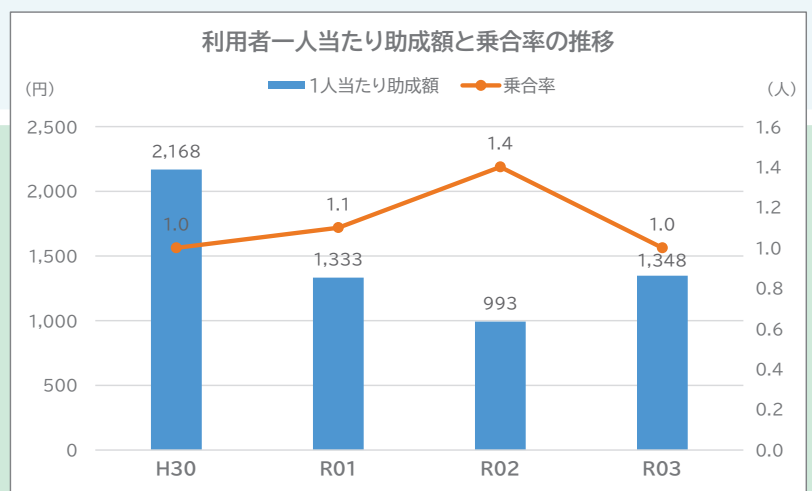
■丹原地域 利用者一人当たり助成額と乗合率の推移

	助成額	乗合率
H30	2,168円	1.0
R01	1,333円	1.1
R02	993円	1.4
R03	1,348円	1.0

注1)利用者一人当たり助成額は運行経費から利用料を差し引いた額を利用人数で除したもの

注2)乗合率はタクシー1台に乗車した人数の平均

- ▶ 丹原地域は乗車距離に応じて事業負担を行っている(加茂地区は時間制)ことに加え、近距離の利用者が多いため、一人当たり助成額が低く抑えられている
- ▶ 乗合率は他自治体の事例(1.5人前後が標準とされる)より低く、ほぼ一人が乗車している状況



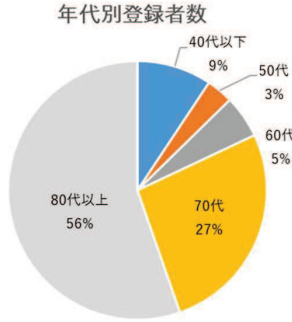
- ▶ 右図のとおり、市の一人当たり助成額は、乗合率が下がると増加し、乗合率が上がると減少する
- ▶ 乗合率を向上させることで、市の財政負担の軽減を図っていく必要

⇒ 地域の皆さんの協力が必要です!

利用登録者 150人
(令和4年11月1日時点)

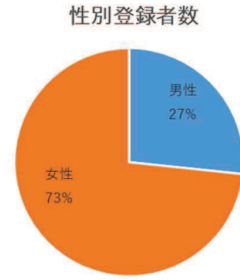
(年代) (人)

40代以下	14
50代	5
60代	8
70代	40
80代以上	83
計	150



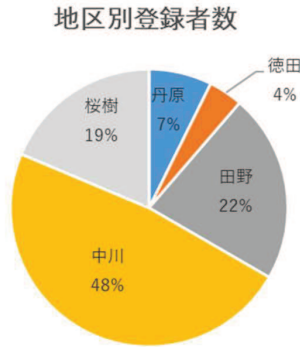
(性別) (人)

男性	40
女性	110
計	150



(地区) (人)

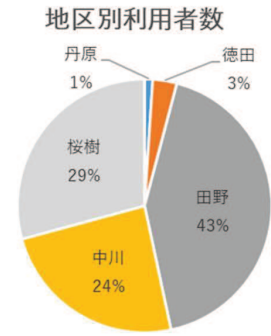
丹原	11
徳田	6
田野	33
中川	72
桜樹	28
計	150



延べ利用者数 401人
(H30年度～R3年度実績)

(地区別延べ利用者数)

丹原	2
徳田	6
田野	83
中川	47
桜樹	57
計	195

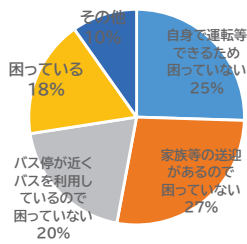


※田野 (小学生)
206は除く

■丹原地域よりそいタクシー 利用登録者対象アンケート

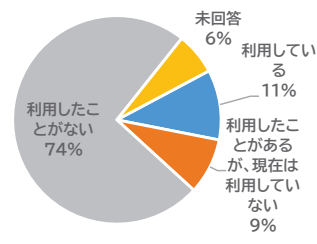
実施期間 令和4年10月7日～21日 発送数130人 回答率35.4%

普段の移動手段について



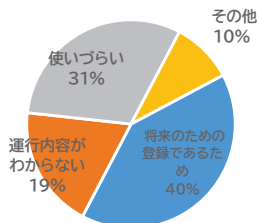
- ▶ 移動に困っている人は約2割
- ▶ 約7割の人は自身の運転、家族、バスなどの移動手段を持っている

丹原よりそいタクシーの利用経験について



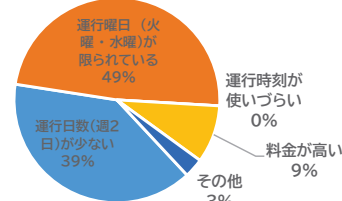
- ▶ 利用したことがない人が7割超
- ▶ 現在利用している人は約1割

丹原よりそいタクシーを利用しない理由



- ▶ 利用していない人に理由を聞くと、「将来のためにとりあえず登録した」という人が4割
- ▶ 「使いづらいから利用しない」と回答した人が約3割

使いづらい理由



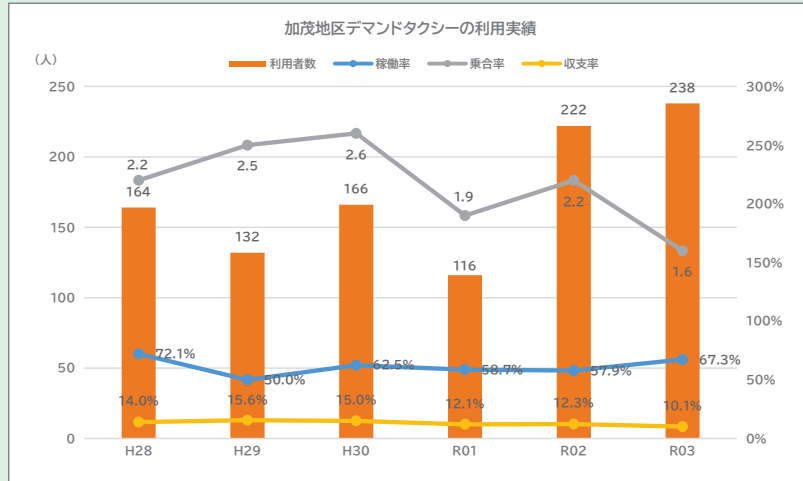
- ▶ 利用していない人が「使いづらい」と感じる理由を問うと、「運行曜日が限られている」「運行日数が少ない」と、運行回数に対する不満が約9割を占めた

加茂地区デマンド型乗合タクシー 《実績》

○人口 107人 ○登録者 55人

- ・加茂地区においては自治会が中心となって利用促進が図られていることから、地域人口に対する利用者の割合が高い
- ・令和2年度のバス路線(加茂線)廃止に伴い、利用者が増加し、稼働率も6~7割と高い水準で推移している
- ・新型コロナの影響か、乗合率の低下とともに収支率も下がってきている

⇒乗合率の向上による収支率の改善が課題



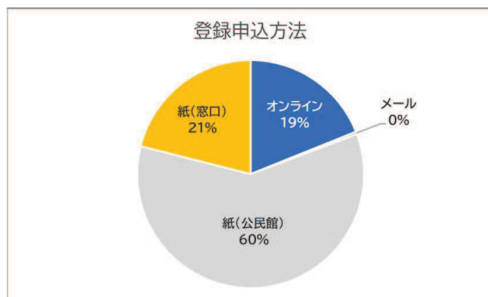
※令和4年3月末時点

西条地域デマンド型乗合タクシー 《11月末 利用登録の状況》

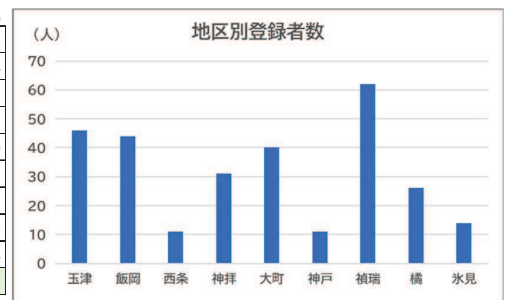
※令和4年11月30日集計

- ・利用登録者は285人(令和4年9月~集計時点)
- ・申込方法は、紙による方法が約8割(公民館経由が6割)、オンライン申請が2割
- ・登録者の年代は70代以上が86%、特に80代が半数以上
- ・登録した理由では、現時点で移動に困っている方が半数近くいるほか、利用に前向きな方も2割いるなど潜在的利用者が一定数いることがわかった

オンライン	54
メール	1
紙(公民館)	170
紙(窓口)	60
計	285

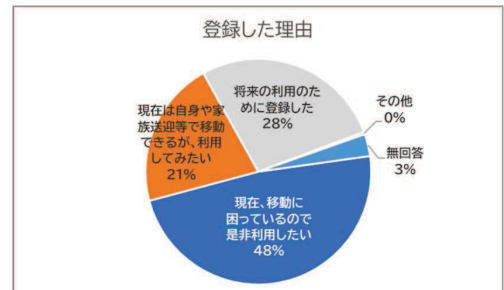
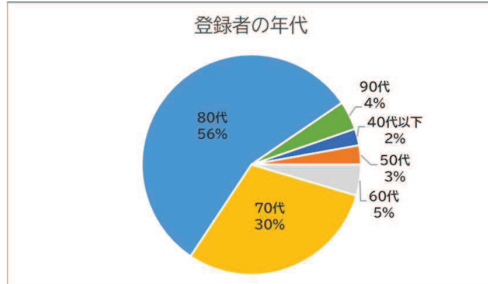


玉津	46
飯岡	44
西条	11
神拝	31
大町	40
神戸	11
禎瑞	62
橘	26
氷見	14
計	285



現在、移動に困っているのでは是非利用したい	137
現在は自身や家族送迎等で移動できるが、利用してみたい	60
将来の利用のために登録した	78
その他	1
無回答	9
計	285

年代	人数
40代以下	7
50代	8
60代	13
70代	85
80代	160
90代	12
計	285



西条地域デマンド型乗合タクシー 《運行実績》

※令和4年11月30日集計

- ・運行2か月目となる11月の実績は次のとおり
- ・週2日(火曜・金曜)で1日4便各便3台(計108回)の計画に対し、実運行回数は77回、稼働率は7割超(前月比+10.9%)
- ・のべ利用者数は116人(前月比+34人)で、1便あたり乗車人数(乗合率)は1.51人

	計画運行回数 (A)	実運行回数 (B)	稼働率 (B/A)	のべ利用者数 (C)	1回当たり利用者数 (C/B)
10月	96回	58回	60.4%	82人	1.41人
11月	108回	77回	71.3%	116人	1.51人
計	204回	135回	66.2%	198人	1.47人

(参考)令和3年度実績 ○加茂地区デマンドタクシー /稼働率 67.3% /1回当たり利用者数 1.60人
○丹原地域デマンドタクシー /稼働率 14.1% /1回当たり利用者数 1.03人



《11月 個別運行状況》

- ・朝9時便は約9割利用されている(稼働率88.9%)
- ・時間帯が遅くなるに従い、利用回数は少なくなった
- ・用事を済ませて帰りたい時間に運行時刻が合わないといった利便性の課題が考えられる

便名	計画運行回数 (A)	実運行回数 (B)	稼働率 (B/A)
1便(9:00)	27回	24回	88.9%
2便(11:00)	27回	23回	85.2%
3便(13:00)	27回	13回	48.1%
4便(15:00)	27回	17回	63.0%
計	108回	77回	71.3%

《収支の状況》

- ・前月に比べて若干収支率が改善(13.0%⇒13.5%)したのは、乗合率が向上した(1.41人⇒1.51人)ことによる
 - ・今後も地域の足として運行していくためには、地域の皆さんと連携しながら、乗合率を高めていく必要がある
- (単位:円)

運行月	運行費用 (A)	運賃収入 (B)	市負担額 (A-B=C)	収支率 (B/A)	利用者1人当 たり助成額
10月	314,960	41,000	273,960	13.0%	3,341
11月	431,120	58,000	373,120	13.5%	3,217
計	746,080	99,000	647,080	13.3%	3,268

～10/4(火) 初日の様子～



高齢で運転に不安があったので、よりよいタクシーの運行開始はありがたい。今後もぜひ利用したい

高齢で一人暮らしなので、親族に頼らず、ちょっと出かけるときに非常に助かる。もう少し運行曜日や便数があればよいと思う



02

地域公共交通の現状と課題

LOVE SAIJO

まちへの愛が未来をつくる

Introduction

地域公共交通の現状と課題

LOVE SAIJO

まちへの愛が未来をつくる

◆鉄道（四国旅客鉄道株）

- 予讃線（伊予西条駅、石鎚山駅、伊予氷見駅、伊予小松駅、玉之江駅、壬生川駅、伊予三芳駅） ※下線駅は、特急停車駅

◆フェリー（四国開発フェリー株）

- オレンジフェリー

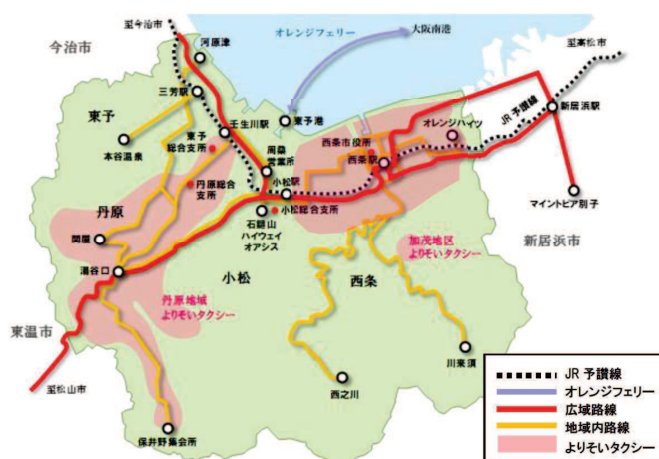
◆乗合バス（瀬戸内運輸株、せとうち周桑株、伊予鉄バス株）

- 高速バス（広域交通）
- 特急バス（地域間交通）
- 路線バス（地域内幹線、地域内支線）

◆デマンド型乗合タクシー

（西条市地域公共交通活性化協議会）

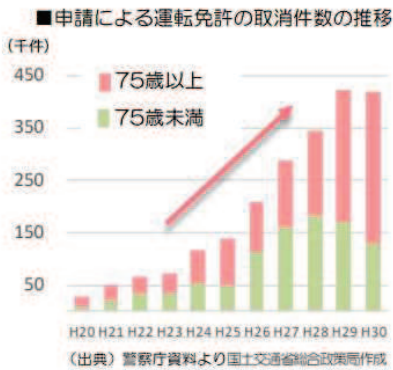
- 西条地域デマンド型乗合タクシー
- 加茂地区デマンド型乗合タクシー
- 丹原地域デマンド型乗合タクシー



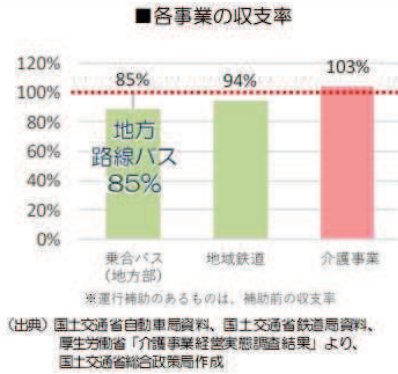
全国的に、

- ▶ 高齢者の交通事故発生割合が増加する中、**75歳以上の免許返納者が急増**
- ▶ 地方における**乗合バス事業の収支は85%程度**に留まっており、根本的な赤字体質が続く
- ▶ バス事業者によっては観光バスで乗合バスの赤字をカバーしてきたが、新型コロナの影響によってビジネスモデルが崩壊 ⇒ **乗合バス事業の継続が困難に**
- ▶ インターネット通販の拡大などによる輸送事業の拡大や人口減少の本格化などによって、**運転手不足がますます顕著に**

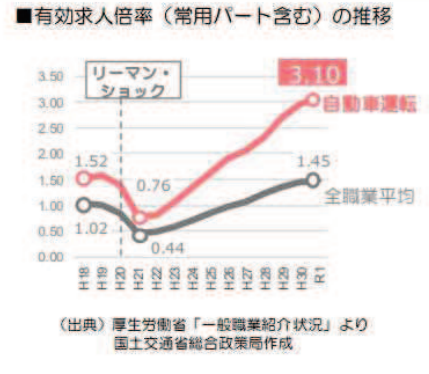
免許返納は年々増加



乗合バス事業の収支は赤字構造



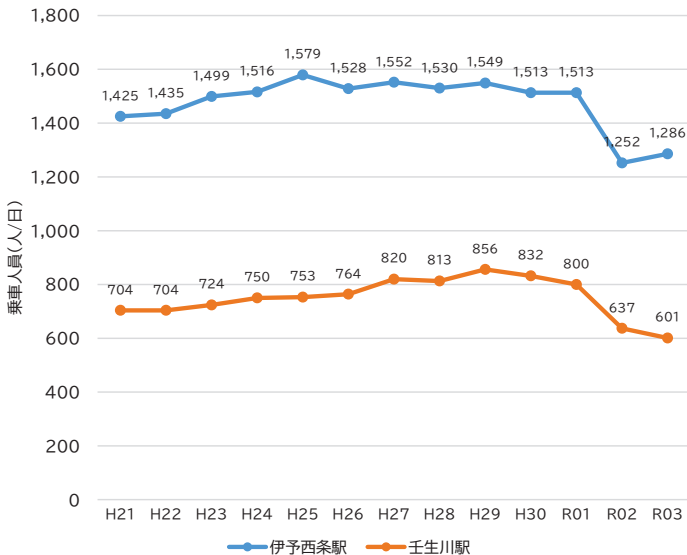
自動車運転事業の人手不足



～JR主要駅の乗車人数～

- ・令和元年度までは伊予西条駅及び壬生川駅ともに横ばい又は微増傾向であったが、**新型コロナ等の影響により、令和2年度に大幅な減少**となった
- ・新型コロナが一定落ち着き、アフターコロナ対策とともに、**令和3年度においては若干の回復傾向**に

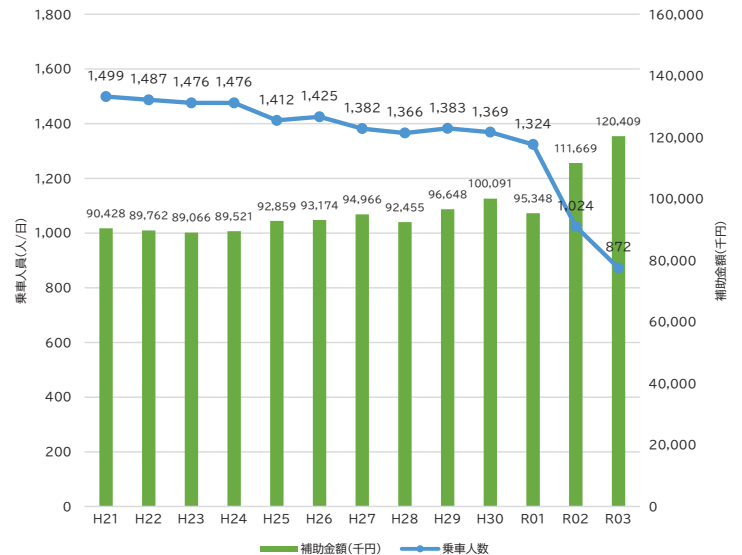
伊予西条駅・壬生川駅乗車人員推移



～市内路線バスの乗車人数と市補助金～

- ・**バス乗車人数は漸減し続けて**おり、その赤字補填である**市補助金は増加し続けている**
- ・特に令和2年度及び3年度は、新型コロナの影響により大幅な減少となり、**令和3年度の市補助金は過去最大**となった
- ・地方バスの維持経費に対しては地方交付税措置がされているものの、財政負担の抑制が課題となっている

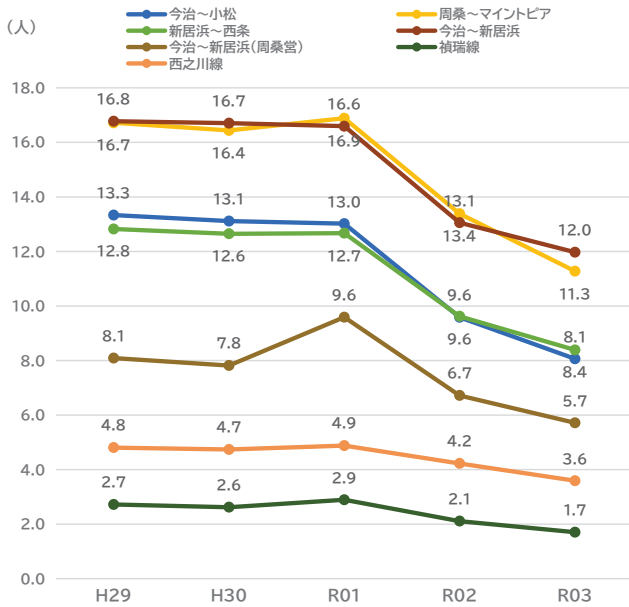
路線バス乗車人員及び補助金額推移



～瀬戸内運輸バスの利用状況～

- ・いずれの路線も **新型コロナウイルスの影響により大幅に減少**
- ・広域幹線(今治小松線、周桑マイントピア線、新居浜西条線、今治新居浜線)は比較的高い利用人数で推移
- ・西之川線(観光路線)、禎瑞線は**利用が低迷**しており、禎瑞線は令和4年9月末で廃止

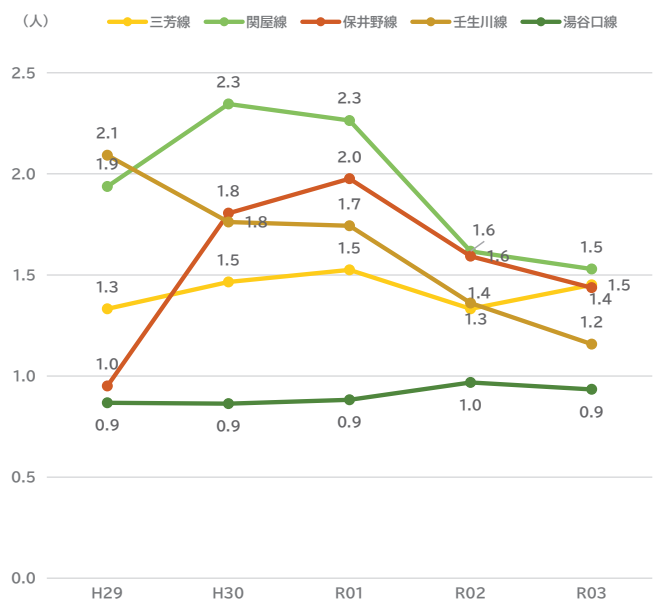
瀬戸内運輸バス 1便当り利用人数の推移



～せとうち周桑バスの利用状況～

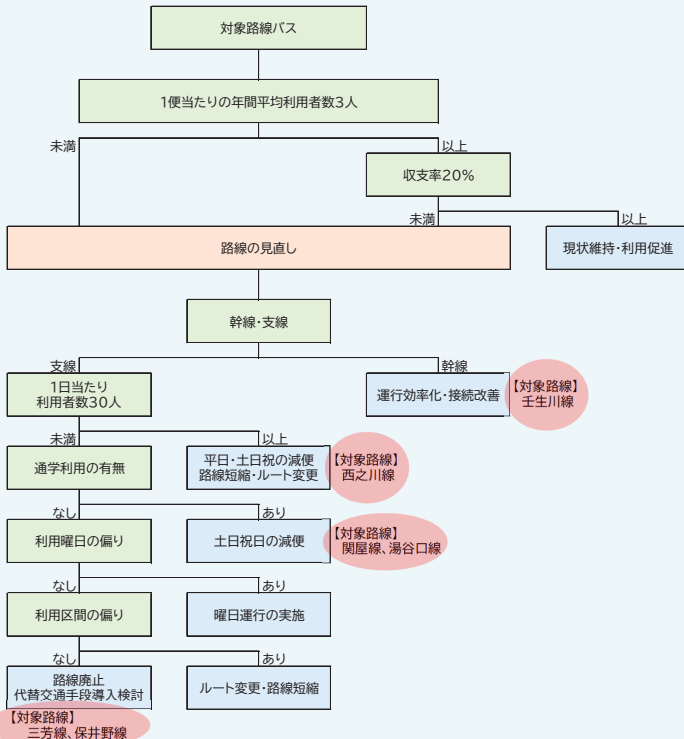
- ・せとうち周桑バスは、市内西部地域を運行する路線
- ・概ね、1便当り1～2人の乗車しかなく、廃止を含めた路線再編が急務
- ・特に湯谷口線は0.9人と、余り利用されていない状態が続いている

せとうち周桑バス 1便当り利用人数の推移



《バス路線見直しフロー図》

令和2年度において、乗降調査や運行実績を基に、利用者が少なく非効率な路線を再編する際の検討基準となる「バス路線見直しフロー図」を作成



《現在》



《路線見直し後の姿》



03

地域公共交通政策における
市の方針

LOVE SAIJO

まちへの愛が未来をつくる

Introduction

地域公共交通政策における市の方針

LOVE SAIJO
まちへの愛が未来をつくる

地域公共交通政策における市の方針

- バス事業者と路線廃止フロー図に基づく路線廃止等について協議をしています
 - ・令和4年9月廃止路線(済み) ⇒ 禎瑞(～オレンジハイツ)線
 - ・令和5年9月廃止路線(予定) ⇒ 今治小松線(瀬戸内運輸)、保井野線(せとうち周桑)
 - ・令和6年9月廃止路線(予定) ⇒ 三芳線(せとうち周桑)
 - ・廃止も含めた見直し対象路線 ⇒ 関屋線、湯谷口線(せとうち周桑)
- 壬生川線を西部(東予)地域の循環線として再編できないか検討します
- 令和5年度⇒ デマンド型乗合タクシーの実績検証
公共交通ニーズの把握等社会調査(アンケート)を実施
- 令和6年度⇒ 地域公共交通計画を改訂
バス路線の廃止に合わせて、西部地域(東予、丹原(見直し)、小松)へ
デマンド型乗合タクシー導入を検討
- デマンド型乗合タクシーの導入にあたっては、
ICTを活用し、利用者の利便性向上や事業者の省力化・効率化等に取り組みます
- 公共交通関連事業費(バス補助、デマンドタクシー、福祉系バス・タクシー補助の総計)は、
平成30年度の市負担実績額(約1億2,700万円)を超えないよう検討します

市内バス路線再編後の公共交通網「イメージ」

